

今は、未だ、吾人が、火星について、最終の結論を言ふ時機ではない。只、火星面上に見える諸種の變化と、其の大体の説明とを以て満足し、完全な解答は將來に待つべきである。

將來、火星の最後の神秘が明らかにされる日には、この星が天文學上に最も驚嘆すべき話を供給するといふことを、専門家も信ずるに違ひない。(終)

### われ等の課長より

拜復、暑さ厳しき折柄にかゝはらず、先生には益々御健祥にて御研究の由、何よりと存じ上げます。

さて、今日は、スライフ博士の研究文の全譯を、ワザワザ御送り下され、有難く、御厚禮申し上げます。流石、火星研究の大御所たるロリエル天文臺のスライフ氏がベスト級の條件を具有する南阿に出張して得た記録文に、吾々北半球の観測者達には得られなかつた貴重な資料の種々を得、1939年の大接近を有効に観測し終つた事は非常に羨しい事であります。

文中、ソリス湖及ゴメル灣の北方に大變動ありと記されてありますが、ソリスの形狀の變化は判つておりますが、ゴメル灣と云ふのが、アントニヤチ氏の詳細火星圖によつて拜しましたが、不明でございますが、どの邊でございませうか？多分、ロリエル天文臺で發見命名した灣と考へられます。

南極冠の縮少及び北極冠の結成は、今回本會にても明瞭にキャッチして居り、今後精密に計算すれば、面積等も算出し得られる事と考へられます。今少し詳細な報告(ソリス湖がどう云ふ様に、又ゴメル灣がどう云ふ様に變化したと云ふ様に)されてあれば、本會の観測と比較し、記事を書き度いと存じますが、少し不詳なのが残念でございます。

何に致せ、火星観測に關しては、世界第一位のロリエル天文臺のスライフ氏が、條件の最良な南阿ブルームフォンタインで、優秀望遠鏡で得た結果と、我々アマチュアがヤット26種そこらの小口径で、しかも條件の悪い北半球で得た結果とは、直接比較にならない事は明白ではありますが、スライフの得た結果の何の邊迄、吾々の観測が爲されてゐるか云ふ點を見るのは興味ある事と存じます。

尙、シルチスの右側に新しい湖と運河が發見された由、小生等の観測にはキャッチし得ませんでした。これは、氣温状態の悪かつた事と、器械の小さいのが原因してゐるのでございませう。是非、上の二つの湖と運河のスケッチを見度いと存じます。右、御返事及御禮迄

敬具

七月三十日

伊達英太郎拜

山本一清先生